

## 平成 29 年度 卒業時アンケート 結果報告

平成 30 年 7 月

大阪大谷大学 IR委員会

## 目次

|   |   |
|---|---|
| 1. 調査の概要 .....  | 1 |
| 2. 所属の学科・専攻にどの程度満足していますか .....                                      | 2 |
| 3. 共通教育 .....   | 3 |
| 4. 外国語教育 .....  | 3 |
| 5. 情報教育 .....   | 3 |
| 6. 専門課程の教育 .....  | 4 |
| 7. ゼミ・演習 .....  | 4 |
| 8. 教員 .....   | 5 |
| 9. 図書館 .....  | 5 |
| 10. 就職支援（企業等） .....   | 5 |
| 11. 学習環境 .....  | 6 |
| 12. もし身近にあなたの所属学科・専攻への進学希望者がいる場合、大阪大谷大学の所属学科・専攻の進学を勧めたいと思いますか ..... | 7 |
| 13. まとめ .....   | 7 |

## 1. 調査の概要

本報告書は、大阪大谷大学における平成 29 年度 3 月期の卒業生を対象として、本学に対する満足度を把握するために実施したアンケートの結果を集計したものである。調査は、moodle（本学公式 e ラーニング・システム）上に設置された各学科別の「卒業時アンケート」に回答してもらう方法で回収された。締め切りは卒業式後 3 月末までとし、各学科の都合により締め切り日を調整した。尚、前年度までは、卒業式前日（最終学年事務連絡日）に調査用紙を一斉配布して無記名方式で実施してきたが、他の IR 関連アンケートと同じ moodle による Web アンケートに移行した。これは、「大学が収集する各種の個人データは、多様な角度から分析して個別の学修支援にフィードバックする」という目的を達成するためには、個々人がどう答えているかを把握できる方式にすべきであるという考えに基づいている。一方、当初より予想されたが、調査用紙方式に比べ回答率は格段に低くなった。ただ、今回 100% の回答を得た学科もあり、回答率の改善は、調査期間や督促方法などの工夫によって解決できる問題だと認識している。

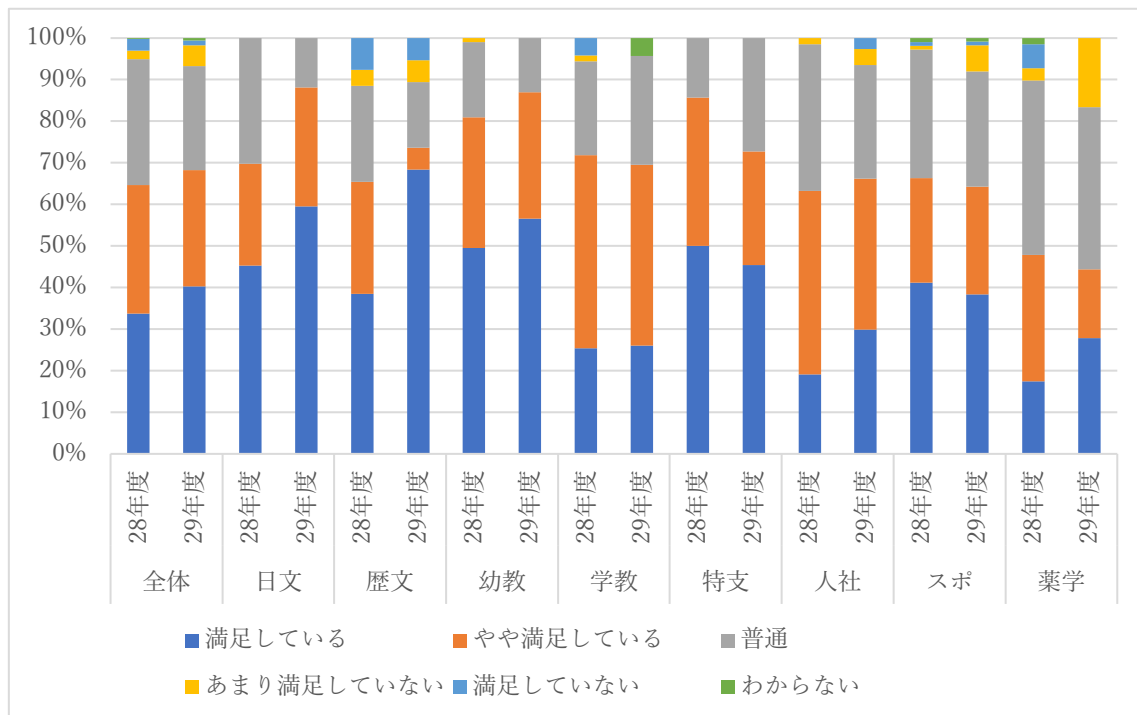
表1 調査の回収状況

|              | 回答数 | 卒業者数 | 回答率 (%) |
|--------------|-----|------|---------|
| 日本語日本文学科     | 42  | 54   | 77.8    |
| 歴史文化学科       | 19  | 44   | 43.2    |
| 教育学科幼児教育専攻   | 23  | 118  | 19.5    |
| 教育学科学校教育専攻   | 23  | 80   | 28.8    |
| 教育学科特別支援教育専攻 | 11  | 29   | 37.9    |
| 人間社会学科       | 77  | 79   | 97.5    |
| スポーツ健康学科     | 112 | 112  | 100     |
| 薬学科          | 36  | 76   | 47.4    |
| 全体           | 343 | 592  | 57.9    |

調査用紙方式 (H27,H28) のときは、回答率が H27：91.6%、H28：93.8% であった。

所属先によって回答率が大きく異なっているため、共通項目を抽出して集計をすると、特定所属先 (人間社会学科、スポーツ健康学科) の卒業生の回答が大きく影響を与えることを了解した上で、分析・考察を行った。

2. 所属の学科・専攻にどの程度満足していますか



- ・ 28年度と比べて日文、歴史文、幼教、人社の満足群が増えた。
- ・ 相対的に、薬学で満足群の割合が低いことの原因を調べる必要がある (H27：38%)

【3～11における表記（単位は%）】

- ・満足している+やや満足している ⇒ 「満足」と表記した。
- ・普通 ⇒ 「普通」と表記した。
- ・あまり満足していない+満足していない ⇒ 「不満足」と表記した。
- ・わからない ⇒ 「その他」と表記した。
- ・教育学科の3専攻はまとめて「教育」と表記した。

3. 共通教育

|    | 満足  |     | 普通  |     |
|----|-----|-----|-----|-----|
|    | H28 | H29 | H28 | H29 |
| 日文 | 54  | 76  | 42  | 21  |
| 歴文 | 43  | 63  | 46  | 32  |
| 教育 | 58  | 53  | 34  | 35  |
| 人社 | 49  | 49  | 40  | 40  |
| スポ | 57  | 57  | 39  | 36  |
| 薬  | 18  | 31  | 59  | 39  |
| 全体 |     | 55  |     | 35  |

- ・前年度と比べて日文、歴文、薬で満足群が大きく増えた。その原因を確かめる必要がある。

4. 外国語教育

|    | 満足  |     | 普通  |     |
|----|-----|-----|-----|-----|
|    | H28 | H29 | H28 | H29 |
| 日文 | 38  | 55  | 49  | 26  |
| 歴文 | 39  | 53  | 43  | 21  |
| 教育 | 39  | 46  | 44  | 32  |
| 人社 | 35  | 44  | 55  | 39  |
| スポ | 48  | 42  | 39  | 44  |
| 薬  | 16  | 19  | 57  | 36  |
| 全体 |     | 43  |     | 36  |

- ・全体の「満足」が50%に達していない（H28, H27も同じ傾向）
- ・日文、歴文、教育で満足群が増えたが、人社、スポの回収数が多い（全体の55%）ため、それが「全体」の割合に影響を与えている。
- ・英語教育センターへの満足度は、別紙（学内向け）で扱う。

5. 情報教育

|  | 満足 | 普通 |
|--|----|----|
|  |    |    |

|    | H28 | H29 | H28 | H29 |
|----|-----|-----|-----|-----|
| 日文 | 59  | 74  | 32  | 26  |
| 歴文 | 25  | 42  | 54  | 42  |
| 教育 | 35  | 44  | 52  | 39  |
| 人社 | 46  | 52  | 45  | 43  |
| スポ | 41  | 46  | 51  | 40  |
| 薬  | 17  | 25  | 55  | 47  |
| 全体 |     | 48  |     | 40  |

- ・「満足」が50%に達していない（H28、H27も同じ傾向）
- ・一部の学科・専攻で「普通」「不満足」群に対し、具体的な改善要望を尋ねているので、その結果を別紙（学内向け）で扱う。

#### 6. 専門課程の教育

|    | 満足  |     | 普通  |     |
|----|-----|-----|-----|-----|
|    | H28 | H29 | H28 | H29 |
| 日文 | 73  | 86  | 21  | 14  |
| 歴文 | 79  | 79  | 18  | 16  |
| 教育 | 73  | 84  | 22  | 14  |
| 人社 | 66  | 71  | 32  | 26  |
| スポ | 62  | 73  | 35  | 21  |
| 薬  | 49  | 58  | 35  | 28  |
| 全体 |     | 75  |     | 20  |

・H28、H27においても、この傾向は明確である。卒業時点に近い学年で受講した科目に対するプラス印象が強く反映されている（逆に1・2回生頃の科目の印象は弱い）と考えられる。特に薬学科は6年間の在学期間に対して専門教育の期間が長いため、その傾向が顕著に現れていると思われる。

#### 7. ゼミ・演習

|    | 満足  |     | 普通  |     |
|----|-----|-----|-----|-----|
|    | H28 | H29 | H28 | H29 |
| 日文 | 98  | 95  | 2   | 5   |
| 歴文 | 96  | 79  | 4   | 16  |
| 教育 | 80  | 86  | 14  | 12  |
| 人社 | 81  | 86  | 18  | 10  |
| スポ | 80  | 91  | 17  | 6   |

|    |    |    |    |    |
|----|----|----|----|----|
| 薬  | 60 | 72 | 30 | 22 |
| 全体 |    | 87 |    | 10 |

・H28 と大きな変化はない。

前記6と併せて考えると、専門教育（所属学科のDPにおける重みが大い）の満足度が高いのは妥当な結果である。

## 8. 教員

|    | 満足  |     | 普通  |     |
|----|-----|-----|-----|-----|
|    | H28 | H29 | H28 | H29 |
| 日文 | 70  | 95  | 17  | 5   |
| 歴文 | 50  | 74  | 18  | 11  |
| 教育 | 78  | 77  | 16  | 14  |
| 人社 | 52  | 63  | 34  | 23  |
| スポ | 70  | 71  | 23  | 20  |
| 薬  | 48  | 50  | 35  | 36  |
| 全体 |     | 71  |     | 19  |

・H28 と較べ大きな変化はない。

## 9. 図書館

|    | 満足  |     | 普通  |     |
|----|-----|-----|-----|-----|
|    | H28 | H29 | H28 | H29 |
| 日文 | 75  | 71  | 23  | 21  |
| 歴文 | 86  | 79  | 14  | 21  |
| 教育 | 63  | 74  | 24  | 11  |
| 人社 | 57  | 62  | 35  | 22  |
| スポ | 57  | 59  | 32  | 27  |
| 薬  | 36  | 50  | 43  | 25  |
| 全体 |     | 64  |     | 22  |

・H28 と較べ大きな変化はない。

## 10. 就職支援（企業等）

|    | 満足  |     | 普通  |     |
|----|-----|-----|-----|-----|
|    | H28 | H29 | H28 | H29 |
| 日文 | 45  | 69  | 34  | 7   |
| 歴文 | 39  | 63  | 36  | 16  |

|    |    |    |    |    |
|----|----|----|----|----|
| 教育 | 48 | 47 | 21 | 12 |
| 人社 | 47 | 53 | 36 | 23 |
| スポ | 48 | 63 | 31 | 17 |
| 薬  | 20 | 36 | 46 | 17 |
| 全体 |    | 56 |    | 16 |

・日文、歴文、スポ、薬で満足群が増えた。これらの学科では、普通群の減少分が満足群にシフトしたことが読みとれる。

・H31にはキャリアセンターが稼働するが、今後さらなる改善効果が現れると予想される。

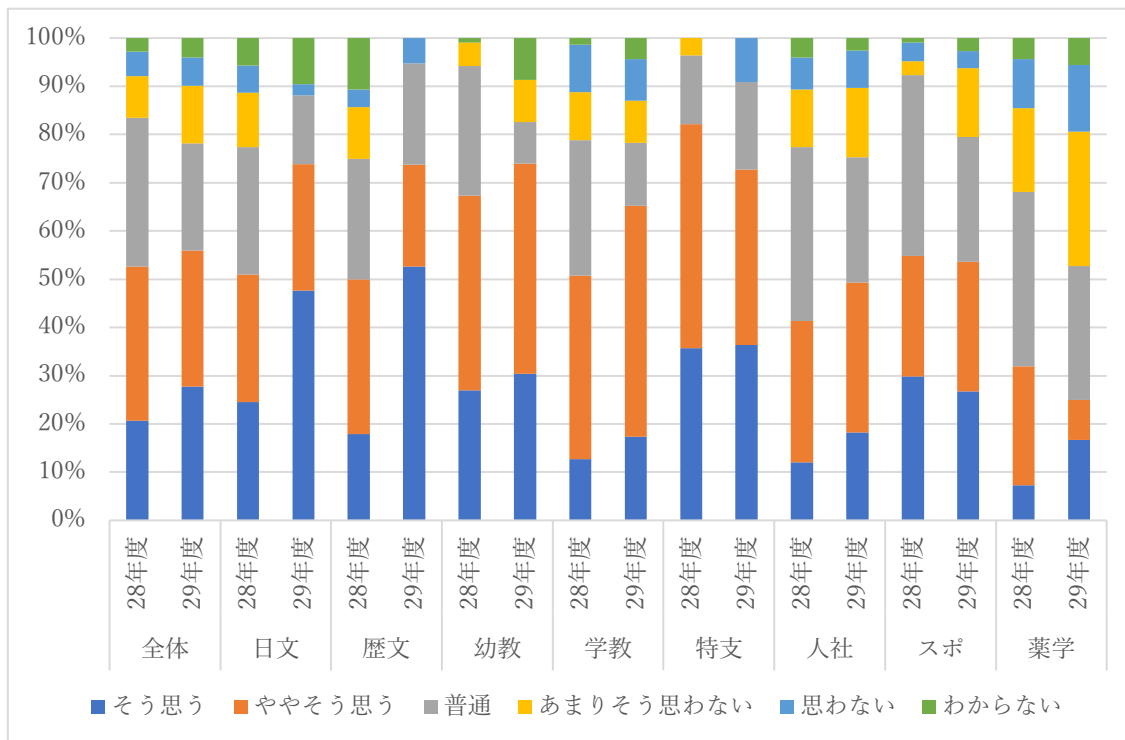
### 1 1. 学習環境

|    | 満足  |     | 普通  |     |
|----|-----|-----|-----|-----|
|    | H28 | H29 | H28 | H29 |
| 日文 | 53  | 64  | 38  | 29  |
| 歴文 | 78  | 68  | 14  | 21  |
| 教育 | 53  | 54  | 32  | 30  |
| 人社 | 41  | 52  | 45  | 35  |
| スポ | 49  | 45  | 42  | 41  |
| 薬  | 38  | 39  | 41  | 31  |
| 全体 |     | 51  |     | 34  |

・H28と比べ大きな変化はない。

・校舎の老朽化、体育施設・設備の不足は大きな不満要因であると推察される。今後、さらに大学入学者数の減少と新キャンパス建設に伴う長期間の環境の劣化が重なるH35までの期間にどのような教育サービスが展開できるか、「満足度を落とさないソフト面での工夫」が重要である。

12. もし身近にあなたの所属学科・専攻への進学希望者がいる場合、大阪大谷大学の所属学科・専攻の進学を勧めたいと思いますか



以下 「そう思う」 + 「ややそう思う」 ⇒ 肯定 「普通」 ⇒ 普通 と表記。

- ・全体では、肯定群が50%を超えている。
- ・日文、歴文で肯定群が増えているが、特支、薬学でやや減少傾向が見られるのは心配される。
- ・次年度は、本問で肯定の回答をしなかった回答者に、その内訳理由を尋ねる必要がある。

13. まとめ

本調査の結果から、約7割の卒業生が満足していることが判った。また、所属学科・専攻を後輩に勧めたいと思う者も5割を超えている。一方、薬学科では「所属の学科・専攻にどの程度満足していますか」で肯定群が約4割、「もし身近にあなたの所属学科・専攻への進学希望者がいる場合、大阪大谷大学の所属学科・専攻の進学を勧めたいと思いますか」の問いでは、肯定群が3割を下回っており、心配される。しかし、これは、薬学科学生の最大の関心事である薬剤師国家試験の合格発表（平成30年3月27日）前に、本調査が行われているということに、影響を受けているからだと考えられる。次年度は、調査開始時期、回答の督促方法についてさらに検討を加え、信頼性の高い回答を得て、結果の分析に取り組むたい。

以上